

野々市市提案型協働事業 活動紹介

協働事業名	ヤーコン関係人口でつながる野々市健康ブランドづくり
事業年度と提案タイプ	令和元年度 市民提案型
解決を目指す課題	野々市市の特産品であり機能性成分に富む健康食材「ヤーコン」を普及することで、「健康のまち野々市」のヤーコン関係人口のつながり強化と、健康でいきいきした地域づくりを目指しました。
協働のポイント	ヤーコン関係人口の現状把握のために、市観光物産協会や町内会と協働してアンケートを実施しました。
団体名称	金沢工業大学 ヤーコンプロジェクト
団体の紹介	野々市市やJAのいち、地域企業などと連携して、地域特産品を使用した機能性食品開発を目指しています。生産現場から食卓までのバリューチェーンにおいて地域と連携することにより、野々市市の特産物ヤーコンの知名度向上を目指しています。
行政担当課	地域振興課
活動の紹介（事業概要）	

ヤーコンを使用した機能性商品開発の基礎データとなる、アンケート調査を実施しました。

1. アンケート調査

(1) 北國街道野々市の市

10月13日（日）開催の第9回北国街道野々市の市に屋台を出店し、来場者アンケートを実施しました。

(2) ヤーコン掘りとイオン御経塚ショッピングセンター開店記念祭

11月9日（土）に開催したヤーコン掘りイベントおよび同日開催されたイオン御経塚ショッピングセンター開店記念祭において、来場者アンケートを実施しました。

(3) 町内会

広報野々市 12月号で告知するとともに、市内54町内会の協力を得て、市内全域を対象とした市民アンケートを実施しました（1,620枚配布）。

2. 主な結果

- 1(1)では、57件の回答を得ることができました。約7割が「ヤーコンを知っている」、約6割が「ヤーコンを食したことがある」と回答しました。
- 1(2)では32件、1(3)では476件の回答を得ることができました。ヤーコンが野々市市の特産品であることは約7割の回答者が知っている一方で、ヤーコンの機能性成分「フラクトオリゴ糖」の認知度は約3割でした。また、約5割が今までにヤーコンを食べたことがある一方で、購入できる場所を知っている人は約3割にとどまりました。

3. まとめ

アンケート集計結果から、ヤーコンの機能性や味、おいしさをPRできる商品開発と販売ルートの拡大が課題であることがわかりました。アンケート結果を踏まえ、次年度以降、ニーズにあった商品を業者と連携し企画していきます。



図1 イオン御経塚ショッピングセンター



図2 北國新聞（令和元年1月22日）



図3 ヤーコン倶楽部との打合せ